

JAIA F☆☆☆☆

**環境対応接着剤**

**ダイアボンド DW252**

ダイアボンドDW252は、クロロプレンゴム系の水性コンタクト形接着剤で、建材パネル、自動車内装部品、製靴材料の接着など、広範囲の用途に使用可能です。

§ 特長

1. ノンホルムアルデヒド仕様です。
2. 水性のため、有機溶剤系のような臭気、毒性が少なく、引火性の心配がありません。
3. 水性タイプとしては、初期接着性、耐熱性、接着力に優れます。

§ 用途

1. カラー鋼板対合板やハニカムコアの接着など各種パネル組立用
  2. 各種自動車内装部品（トランクトリム、リヤシェルフカバー、サンバイザーなど）の接着
  3. 製靴用（中底の接着など）
  4. その他 紙、布、木材、塗装鋼板の接着
- ☆ 被着材の組み合わせによっては、接着しにくいものがありますので、試験した上でご使用下さい。

§ 一般性状

|             |       |                 |
|-------------|-------|-----------------|
| 主 成 分       |       | クロロプレンゴム        |
| 外 観         |       | 乳白色             |
| 不 揮 発 分 (%) |       | 50 ± 2          |
| 粘 度 (mPa·s) | at20℃ | 30,000 ~ 50,000 |
| 指触乾燥時間 (分)  | at20℃ | 10 ~ 20         |
| 粘着保持時間 (分)  | at20℃ | 30 ~ 40         |
| p H         |       | 5 ~ 6           |
| 保 証 期 間 (月) | at25℃ | 6               |

§ 使用方法

1. 前 処 理 被着材表面の水分やゴミ，油などを除去し，汚れのないよう清浄にします。
2. 塗布方法 被着材の両方に刷毛やローラーなどで接着剤を均一に塗布します。  
塗布量は，片面当り 150～250 g/m<sup>2</sup>（両面で 300～500 g/m<sup>2</sup>）塗布して下さい。
3. はり合せ 常温にて 10 ～ 40 分間乾燥してからはり合せます。  
加熱乾燥の場合は，80 °Cで 3～5 分間乾燥してからはり合せます。
4. 加 圧 はり合せ後，十分に加圧して接着します。

§ 接着性能

はく離接着強さ

(N/25mm)

|          | Al/Can | 鋼板/Can | SBR/Can | カラー鋼板/<br>Can | ABS/Can |
|----------|--------|--------|---------|---------------|---------|
| 常 態      | 24     | 44     | 30      | 28            | 31      |
| 熱老化      | 26     | 42     | 56      | 24            | 21      |
| 耐 熱 80°C | 16     | 16     | 11      | 13            | 8       |
| 耐 水      | 18     | 6      | 34      | 10            | 16      |

Al：アルミニウム板(0.2mm 厚)      Can：綿帆布

試験方法：JIS K 6854 に準ずる

§ 注意事項

- ・ 保管中に分離することがありますので，使用前に全体が均一な層になるまで攪拌してご使用下さい。
- ・ 取扱い作業中には，換気をよくして下さい。
- ・ 目に入った場合には，多量の水で洗い，できるだけはやく医師の診察を受けて下さい。
- ・ 誤って飲み込んだ場合には，水で口の中をよく洗い，ただちに医師の診察を受けて下さい。
- ・ 皮膚に付着した場合は，すぐに付着物をふき取り，水と石けんでよく洗います。
- ・ 器具の洗浄は，使用后ただちに行って下さい。乾燥皮膜は，トルエンなどで洗浄して下さい。
- ・ 容器を密閉して，直射日光の当たらない場所で，5 °C～35 °Cで保管して下さい。
- ・ 容器からこぼれた場合には，砂などを散布したのち処理下さい。
- ・ 空容器は，中身を使いきってから廃棄して下さい。
- ・ 接着剤を廃棄する場合，産業廃棄物の許可を受けた専門業者に委託して下さい。
- ・ 子供の手の届かないところに保管して下さい。
- ・ 本来の用途以外には使用しないで下さい。
- ・ 水性の被着材及び施工法によっては錆発生可能性がありますので十分なる確認試験をお願いします。

☆ 上記の接着性能データは，当社実験室で得られた値ですので，接着剤選定の目安としてご使用下さい。環境条件や作業条件などにより，得られる値も変化しますので，より正確な接着性能を求めたい場合は，それぞれの用途に合わせて確認試験されることをお勧めします。